

第 7 回 旧北上川河口かわまちづくり検討会

「第 6 回 旧北上川河口かわまちづくり検討会」以降の検討概要



国土交通省 北上川下流河川事務所



石 巻 市

1 第6回検討会の主な意見と対応状況

第6回検討会の主な意見			対応状況 等
南浜・門脇 2・3丁目地区	防災マリーナ（陸閘周辺）	<ul style="list-style-type: none"> ・マリーナ周辺の「立入遠慮区域」は、どのような意味か。 ・危ないのであれば、立入禁止にした方がよい。 	⇒ <ul style="list-style-type: none"> ●関係機関と調整の結果、立入「遠慮」区域は設けない。 ●陸閘、浮棧橋等の安全管理上立入りを制限する箇所については、立入り防止柵を設置する。
	石巻南浜津波復興祈念公園と旧北上川の連携	<ul style="list-style-type: none"> ・復興祈念公園と旧北上川をつなぐ動線は重要性が高く、ぜひ回遊性が高まる取り組みをして欲しい。 	⇒ <ul style="list-style-type: none"> ●復興祈念公園と旧北上川をつなぐ動線の舗装を、復興祈念公園の舗装デザイン（材質、色）と合わせ、連続性のあるものとする。 ⇒14頁に記載 ●誘導サインを設置し、双方への誘導を図る。
中央・門脇 1丁目地区	転落防止対策	<ul style="list-style-type: none"> ・川沿いは、人の転落等を防止するための工夫がほしい。 	⇒ <ul style="list-style-type: none"> ●中央地区は港湾区域で護岸に船が付くため、柵類は設置していない。 ●そのため、進入を抑止するボラード（支柱）を設置するとともに、浮き輪やタラップ等を設置し、万が一転落した際の対策を行っている。 ●港湾区域以外の区間は、修景捨石を川前に整備し、川に直接転落しないよう工夫を行っている。 ⇒5、6頁に記載
住吉・大橋地区	大島神社前の石積み擁壁	<ul style="list-style-type: none"> ・擁壁の材料は、井内石ではなく中国産の白御影石に代替しているのか。 ・石積み擁壁が白御影石なのであれば、笠石の部分だけでも井内石にするなど、デザイン上の工夫はある。 	⇒ <ul style="list-style-type: none"> ●井内石は、石積み（間知石）への加工は難しい（石材組合聴き取り）。 ●石積み擁壁の間知石には国産の「男鹿石」を、笠石部分には石巻市産の「井内石」を使用することとした。 ⇒9頁に記載
	大島神社ならびに周辺の整備	<ul style="list-style-type: none"> ・住吉公園の平面空間は、中央地区と同様に大事な区間である。雄島の整備も含めて、今後詰めていく必要がある。 	⇒ <ul style="list-style-type: none"> ●石碑等の配置は、<u>神社と石巻市とで検討中</u>。
		<ul style="list-style-type: none"> ・堤防ができて新しい空間になっていく中で、神社の何もかもを新しくすることはやめてほしい。 	⇒ <ul style="list-style-type: none"> ●神社等の建替えは、<u>神社側に一任</u>している。
川側のコンクリート平板（飛び石）について	<ul style="list-style-type: none"> ・川側のコンクリート平板は、浸水して泥をかぶった後、利用者が滑って転倒すること等が危惧される。 ・危険性も含め、川とともに生きていくリテラシーを市民のみなさんと高めていくことを希望したい。 	⇒ <ul style="list-style-type: none"> ●既存の設置事例ならびに、水際を歩きたいという市民意見を鑑み、設置する方向で詳細設計を実施。 ⇒7頁に記載 	

《第6回旧北上川かわまちづくり検討会》

日時：平成30年7月12日（木）10:00～12:00

場所：石巻市役所 防災センター



第6回検討会の主な意見		対応状況等	
井内・藤巻地区	既設護岸を残す区間	<ul style="list-style-type: none"> ・既存のものを残すということで喜ばしい。ただし、テラスとなる市道は、現状では、石積みの上にコンクリートブロックで嵩上げされ、そのうえにガードレールが設置されている。特にガードレールは撤去して、歩行者空間として快適になるようにしてほしい。 	⇒ ●ガードレールは撤去する。 ●石積み上のコンクリートブロックは、当該地区の整備の歴史（履歴）を残すために残置する。 ⇒11 頁に記載
		<ul style="list-style-type: none"> ・護岸の石積みが崩れてきている箇所があるが、補修してもらえるのか。 	⇒ ●必要な補修を実施していく。
	上流（現市道活用部）のテラス舗装の継目処理	<ul style="list-style-type: none"> ・テラスのコンクリート舗装から、もとの市道部分のアスファルト舗装となる継目のところは難しいデザインなので、慎重に検討して欲しい。 	⇒ ●対応方法を地区別 WG で検討中。
	かわどの復元	<ul style="list-style-type: none"> ・屋敷内のきちんとした「かわど」があった。ぜひ復元してもらいたい。 	⇒ ●既存護岸を残す区間にあるもので、可能なものは残置する。 ●かわどについては、親水テラスという現代に合わせたデザイン、機能とし、全体の中で6箇所に設置予定。
	堤防山付け部の広場デザイン	<ul style="list-style-type: none"> ・上流側のスペースはあまり拡大しなくて良い。下流側とつながりのある設えにして欲しい。 ・県道と堤防天端が合流する箇所に、衝突防止対策（カラーコーン等）や、派手な注意喚起のための対応が後から追加されないよう、車両用防護柵を交差点部に巻き込んでおくなどの対策を行って欲しい。 	⇒ ●管理用通路を挟んだ上流側と下流側の広場がつながりがあるデザインとする。 ⇒12 頁に記載 ⇒ ●管理用通路側に車両用防護柵を巻き込んでおく等の安全対策を行う。 ※堤防天端には車止めを設置するため、一般車両は進入できない。 ⇒12 頁に記載
その他	サインの表記内容	<ul style="list-style-type: none"> ・英語表記だと「KYU」となってしまうことも含め、「旧北上川」と表記することに心理的に抵抗を覚える。 ・インバウンド需要等を考慮に入れた際、英語表記をもっと大きくしてはどうか。 ・東北最大の川であるので、サインに県外情報、例えば「〇〇市まで何キロ」「上流まで…」といった内容を加えてほしい。 	⇒ ●河川法上の名称を変更することは、沿川住民の総意、熱意があれば可能と思われる。なお、既に地域呼称として「北上川」を使用しているので、特に差し支えない。 ⇒ ●英語フォント表記の大きさは、 <u>盤面全体のデザインを踏まえて検討する</u> 。
	サイン基礎の形状	<ul style="list-style-type: none"> ・サインは大きいものもあるので、基礎が堤防定規に抵触しないか確認が必要である。 	⇒ ●基礎が堤防定規に抵触しないよう考慮し、設置位置、固定方式等の設計を行っている。
	夜間の明るさ	<ul style="list-style-type: none"> ・石巻再生の象徴としての旧北上川の両岸が、夜になると暗すぎる。官民が連携し、「明るさプロジェクト」として、夜も明るい北上川の実現に取り組んでほしい。 ・街側の明かりと共に、長いスパンの中で考えていけばよい。「明るさプロジェクト」は良いキーワードであるので、復興の今後の一つの柱にしたいと良い。 	⇒ ●中央地区について、街の明かりと共に明るい空間となるよう、堤防一体空間の照明計画の見直しを実施。 ●川表側坂路部分への照明、堤防法肩部の照明等を追加設置した。 ⇒5 頁に記載
	桜による川とまちとの連携	<ul style="list-style-type: none"> ・立町通りのアーケードから旧北上川にかけて、桜でまちの流れをつくる等、まち全体のイメージを考えた植樹プロジェクトをやらなくてはいけないと思っている。 	⇒ ●今後のまち側の動きを加味しつつ、対応を検討する。

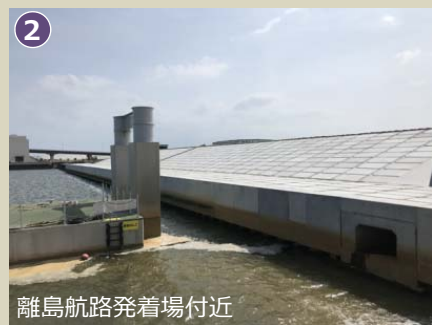
2 各地区の現状と本検討会の主な報告内容

- 進捗状況
- 本検討会の主な報告内容



◆南浜・門脇地区

- 築堤護岸：一部完成



◆中央・門脇1丁目地区

- 築堤護岸：一部完成
- 堤防一体空間：利用開始
令和元年8月18日(日)
プレオープン式典開催



(1) 中央地区

- ◎堤防一体空間・テラス空間の整備状況

(4) 南浜・門脇地区

- ◎復興祈念公園との連携について

◆川口・湊地区

- 築堤護岸：一部完成
- 親水テラス：施工中
- 防災緑地1号と合流する天端広場
：今年度詳細設計



(2) 住吉・大橋地区
①浮棧橋周辺の護岸・テラス空間

(2) 住吉・大橋地区
②大島神社前の護岸・テラス空間・石積擁壁の使用石材 等

◆住吉・大橋地区

- 築堤護岸：整備中
- 大島神社周辺：神社と施設配置、具体的な施工方法等について調整中
- 住吉小学校前：詳細設計中

7

築堤状況（川表側）

8

築堤状況（神社側）

(2) 住吉・大橋地区
③住吉小学校前の干潟空間・上流端部の形状 等

D

石巻大橋
親水テラス

令和元年 12月撮影

C

雄島

令和元年 12月撮影

(3) 井内・藤巻地区
①山付け部広場空間上流側スペースの活用

(3) 井内・藤巻地区
②二段テラス区間の細部デザイン

F

令和元年 12月撮影

E

住吉小学校

令和元年 12月撮影

◆八幡・不動地区

- 築堤護岸：一部完成
- 親水テラス：施工中

9

孫兵衛船競漕の控所

10

孫兵衛船競漕の観覧

(3) 井内・藤巻地区
③現況護岸を残置する区間の既存のブロック、ガードレールの処理方法

(3) 井内・藤巻地区
④どんと祭に利用できるテラス空間

◆井内・藤巻地区

- 築堤護岸：整備中

11

最上流部

3 各地区の整備及び検討の状況

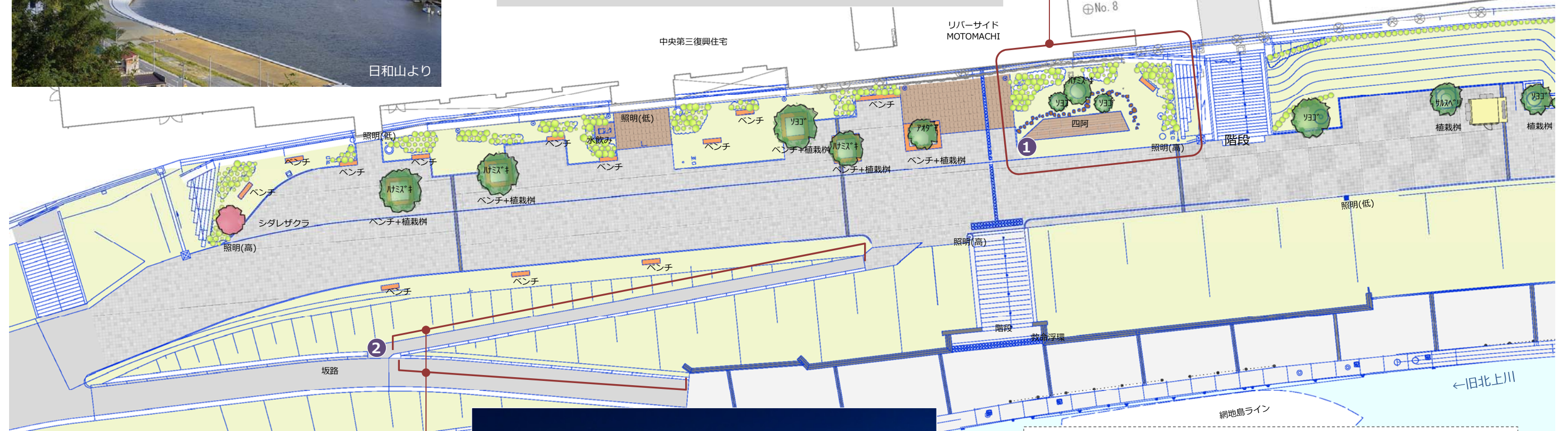
(1) 中央地区

◎ 堤防一体空間・テラス空間の整備状況



【四阿】

- ・シンプルで川に向かうような細長いデザイン
- ・川や船などを見下げ、背面側の樹木を見上げるような方向性をつくる屋根の形状



【照明（坂路部）】

- ・テラスへ降りる坂路には、グランドマーカ照明を設置



● 商業スペースとしての社会実験

- ・堤防一体空間（交通広場前）上で飲食、売店等の営業を行う社会実験を実施中。



【交通広場前堤防一体空間】

- ・キッチンカー等の設置空間（幅W=10.5m 堤防天端部分含む）
- ・アクセントとなる植栽、転落防止も兼ねたロングウォールベンチを設置



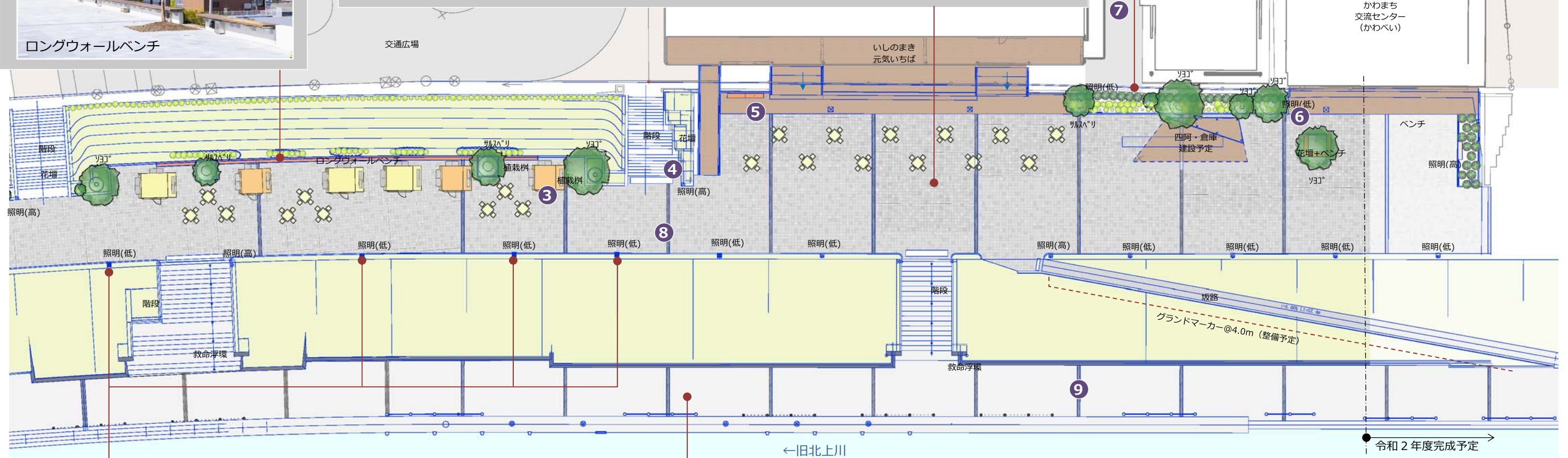
【元気いちば・かわべい前堤防一体空間】

- ・堤防一体空間へ登る階段には花壇スペースを設置
- ・いしのまき元気いちば、かわべいと一体となるデッキの設置



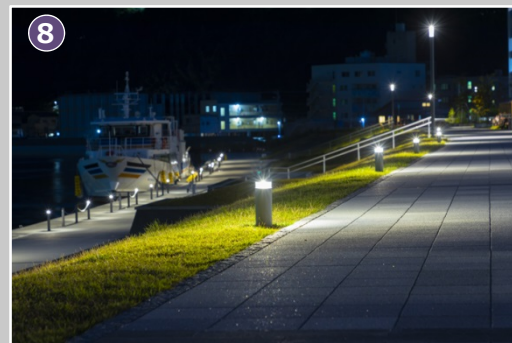
【擁壁部の修景】

- ・堤防と元気いちばとの境界の擁壁は、コンクリートパネルが単調にならないよう工夫。（縦スリットを強調したデザイン）



【照明（天端法肩へ追加）】

- ・灯りで夜の空間を演出するため、交通広場前堤防一体空間の法肩部に照明（低）を追加



【テラス空間】

- ・下流側から統一したデザイン



●川開き祭

- ・令和元年7月31日～8月1日に行われた川開き祭の花火大会の際には、完成した堤防一体空間を多くの観覧者が利用。



●中央2丁目地区堤防一体空間プレオープン式典

- ・令和元年8月18日に概成を記念し、プレオープン式典を開催。

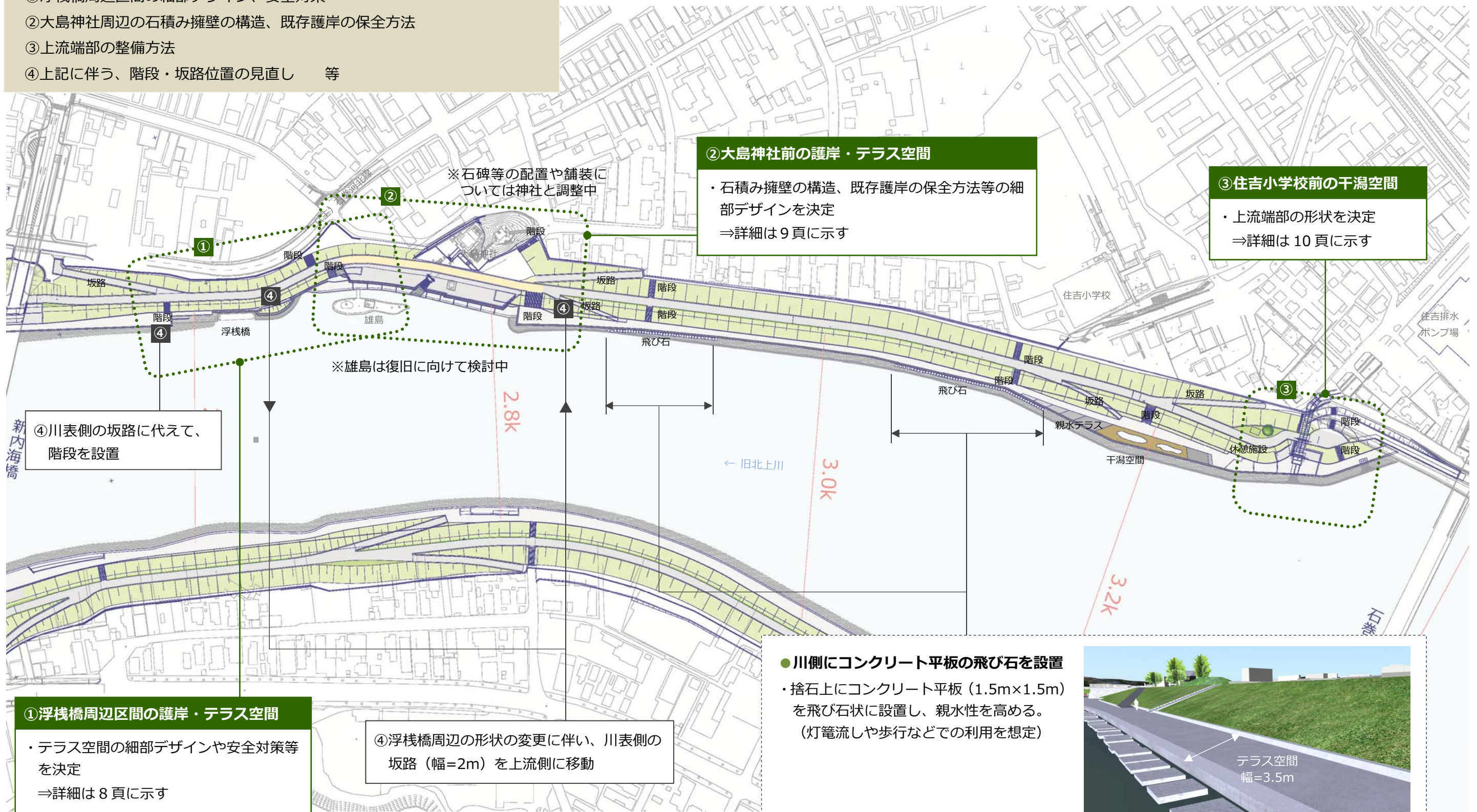
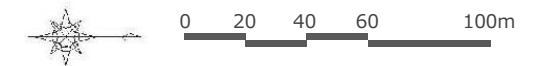


(3) 住吉・大橋地区

住吉・大橋地区については、以下のデザイン案等について検討を行った。

- ①浮棧橋周辺区間の細部デザイン、安全対策
- ②大島神社周辺の石積み擁壁の構造、既存護岸の保全方法
- ③上流端部の整備方法
- ④上記に伴う、階段・坂路位置の見直し 等

: 詳細の報告内容



②大島神社前の護岸・テラス空間

- ・石積み擁壁の構造、既存護岸の保全方法等の細部デザインを決定
- ⇒詳細は9頁に示す

③住吉小学校前の干潟空間

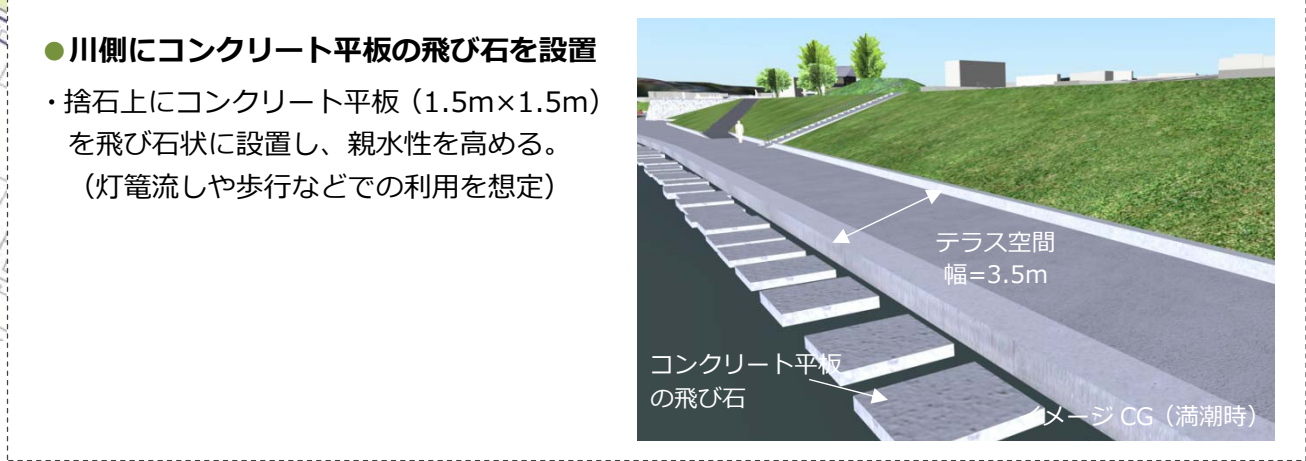
- ・上流端部の形状を決定
- ⇒詳細は10頁に示す

④川表側の坂路に代えて、階段を設置

①浮棧橋周辺区間の護岸・テラス空間

- ・テラス空間の細部デザインや安全対策等を決定
- ⇒詳細は8頁に示す

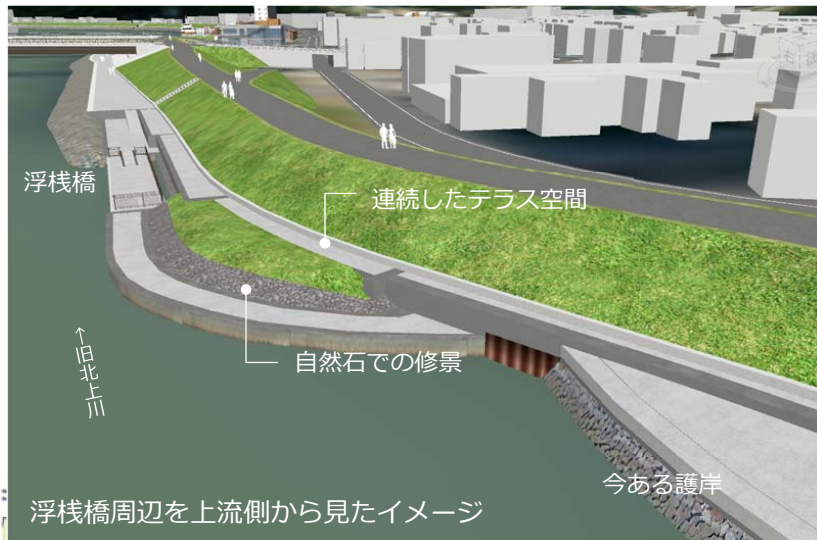
④浮棧橋周辺の形状の変更に伴い、川表側の坂路(幅=2m)を上流側に移動



①浮棧橋周辺の護岸・テラス空間

《デザイン方針》 既存の護岸・浮棧橋と大島神社前の印象つなぐ

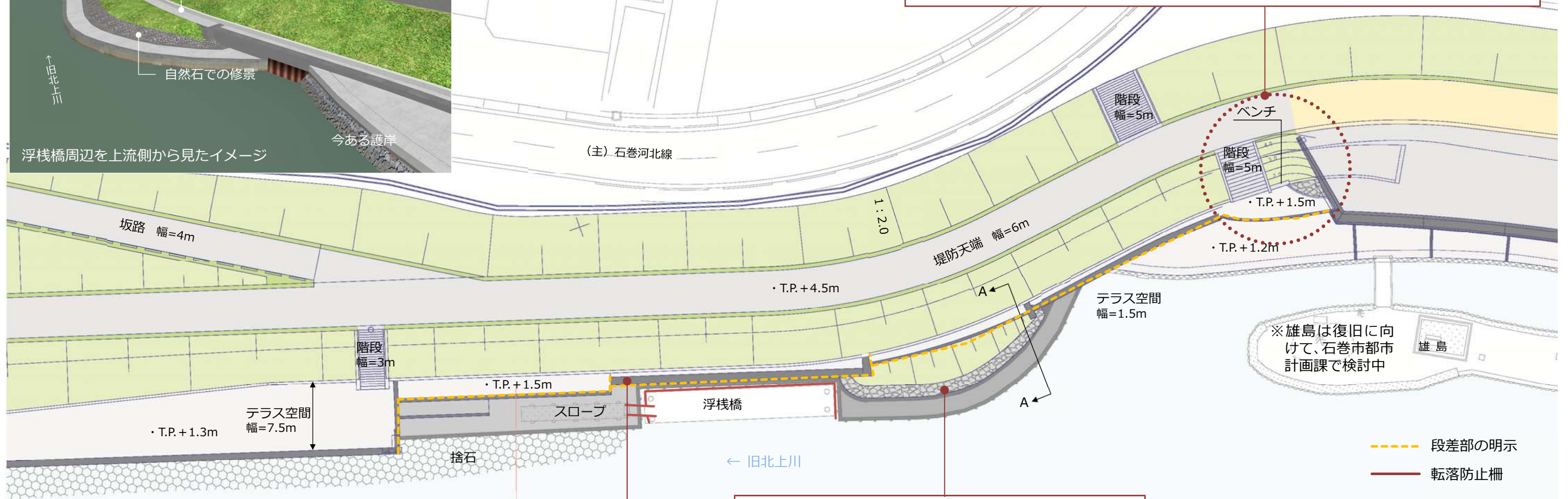
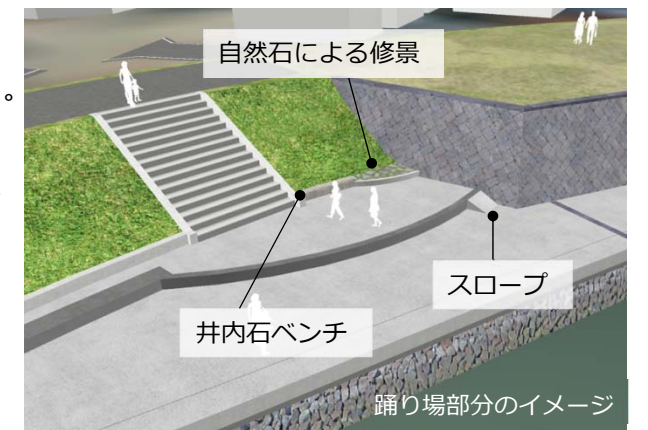
- ・今ある護岸が震災にも耐え残っているため、それを潰さずに活用する
- ・安全で快適に利用できることに加え、上流側の大島神社へとつながる箇所にあたることから、印象をつなぐ修景を行う



□ : 第6回検討会以降の検討内容

● 踊り場部分の整備

- ・階段下に、腰掛けられるベンチを置く。
- ・法面の下部を自然石で修景する。
- ・車椅子利用者等を考慮して、段差部にスロープを設置



● 段差になる部分等の安全対策

- ・テラス空間で、幅が変わる部分や段差等を明示するために、際の部分を洗出し仕上げなどにして目立たせる。
- ※平面図黄色点線部分
- ・浮棧橋には、利用時の安全性を考えて転落防止柵を設置。

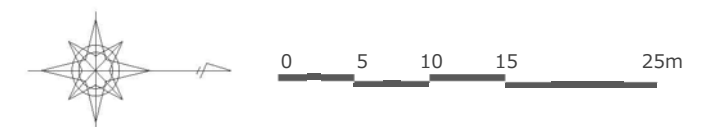
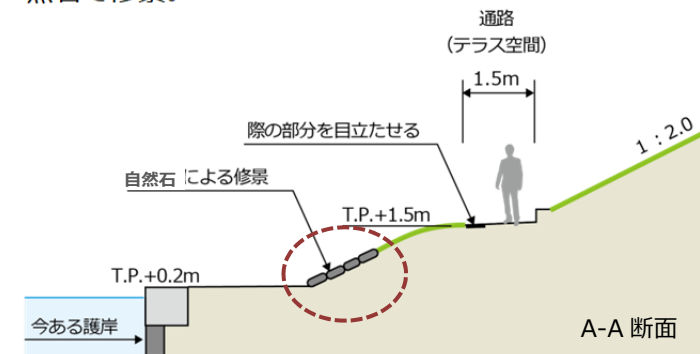


参考事例：創成川（札幌市）



● 自然石での修景

- ・一段低いテラスは法面の保護も兼ねて、法面の下部を自然石で修景。



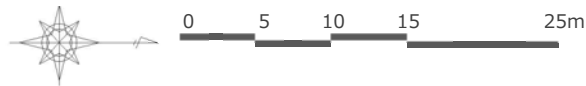
②大島神社前の護岸・テラス空間

《デザイン方針》

神社前としてふさわしい空間とする

- ・既存の石積み護岸を残し、昔を偲ばせる空間とする
- ・擁壁には、国産で風格のある男鹿石を、笠石部に井内石を使用

□ : 第6回検討会以降の検討内容

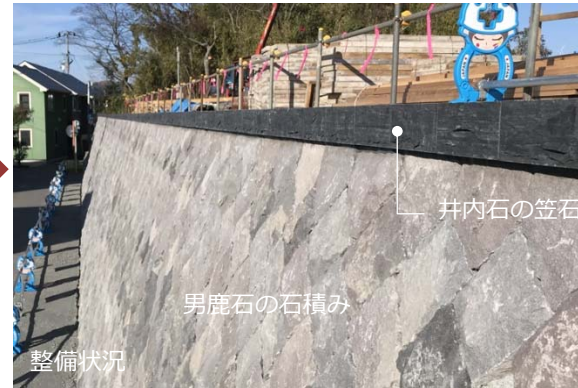


●井内石と男鹿石を用いた石積み

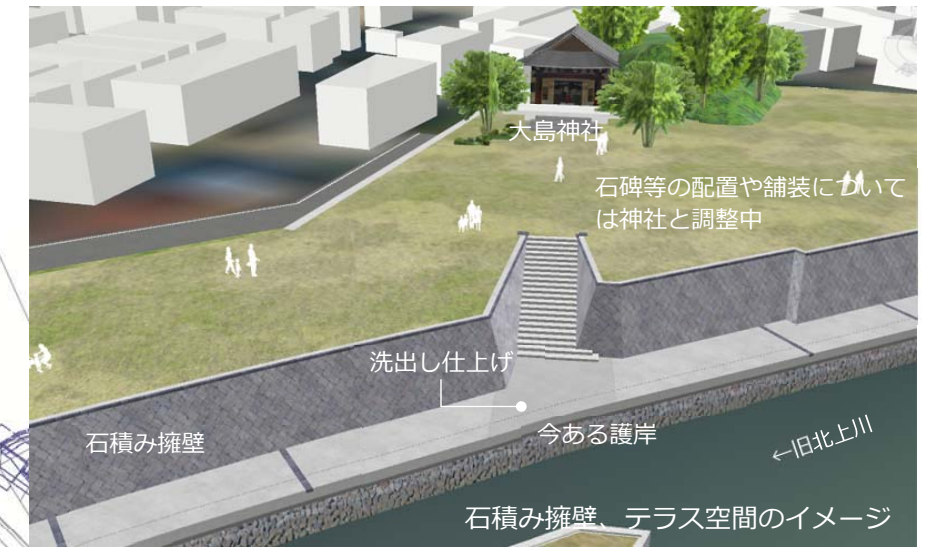
- ・笠石厚の設定にあたり、似たイメージの箇所（蛇田地区）で実際に井内石を設置し、擁壁からの張り出し長さ等の詳細を検討。



笠石の厚さを検討 (H31.1.17)



笠石の高さ（厚み）は13cm、笠石の護岸面からの張り出しは3cmに決定



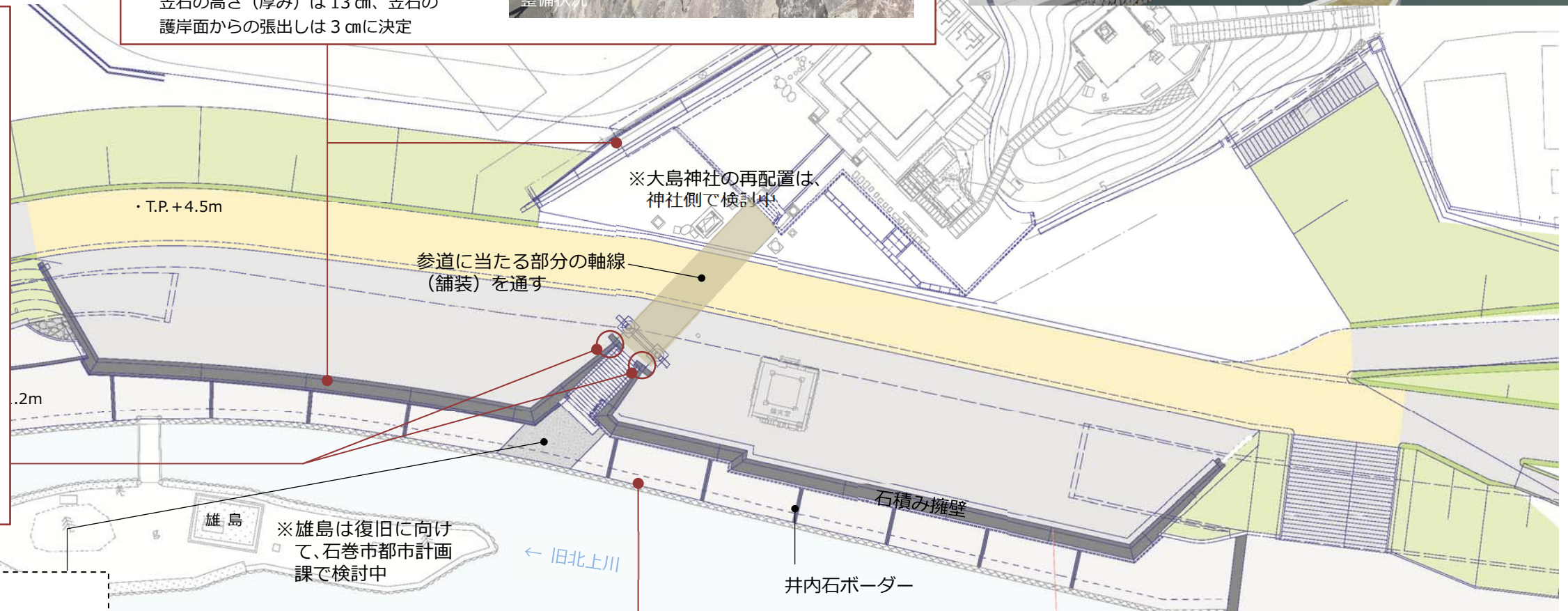
石碑等の配置や舗装にがいては神社と調整中
大島神社
洗出し仕上げ
石積み擁壁
今ある護岸
←旧北上川
石積み擁壁、テラス空間のイメージ

●階段端部への要石の設置

- ・階段端部は、自然石の留石で石積み護岸の小口を止める



※参道階段部への手すりは、本事業では設置しない。
今後、利用を進めていく中で設置の必要性が生じた場合は、石積み空間の景観を損なわないよう配慮する。



・T.P.+4.5m

参道に当たる部分の軸線（舗装）を通す

※大島神社の再配置は、神仕側で検討中

0.2m

※雄島は復旧に向けて、石巻市都市計画課で検討中

←旧北上川

井内石ボーダー

石積み擁壁

●参道部分の洗出し仕上げイメージ

- ・標準骨材の洗い出し。
- ・現場付近で試行し、地区別WGにて仕上げイメージを確認。

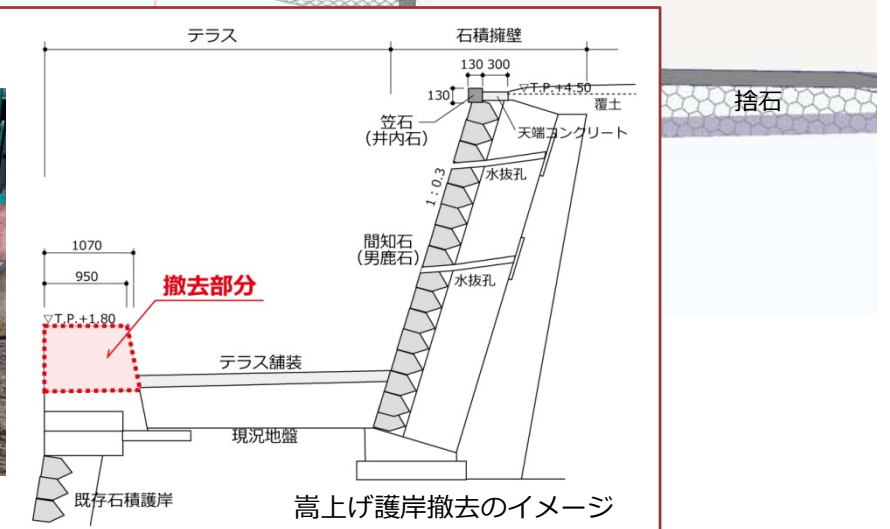


●既存護岸の活用とテラス部の処理

- ・テラスの既存護岸は、震災後コンクリートで嵩上げた部分を取り壊し、以前からの石積み護岸を活用した仕上げにする。
- ・テラス部は井内石のボーダーを配し、神社前の特別な空間として修景する。
- ・舗装は、神社の参道の軸線が明確になるよう仕上げる。



現在の大島神社前の石積み護岸



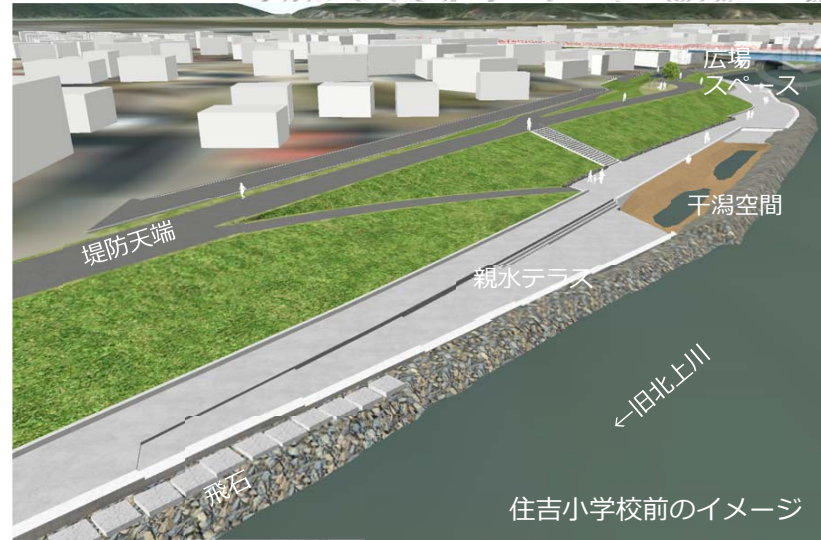
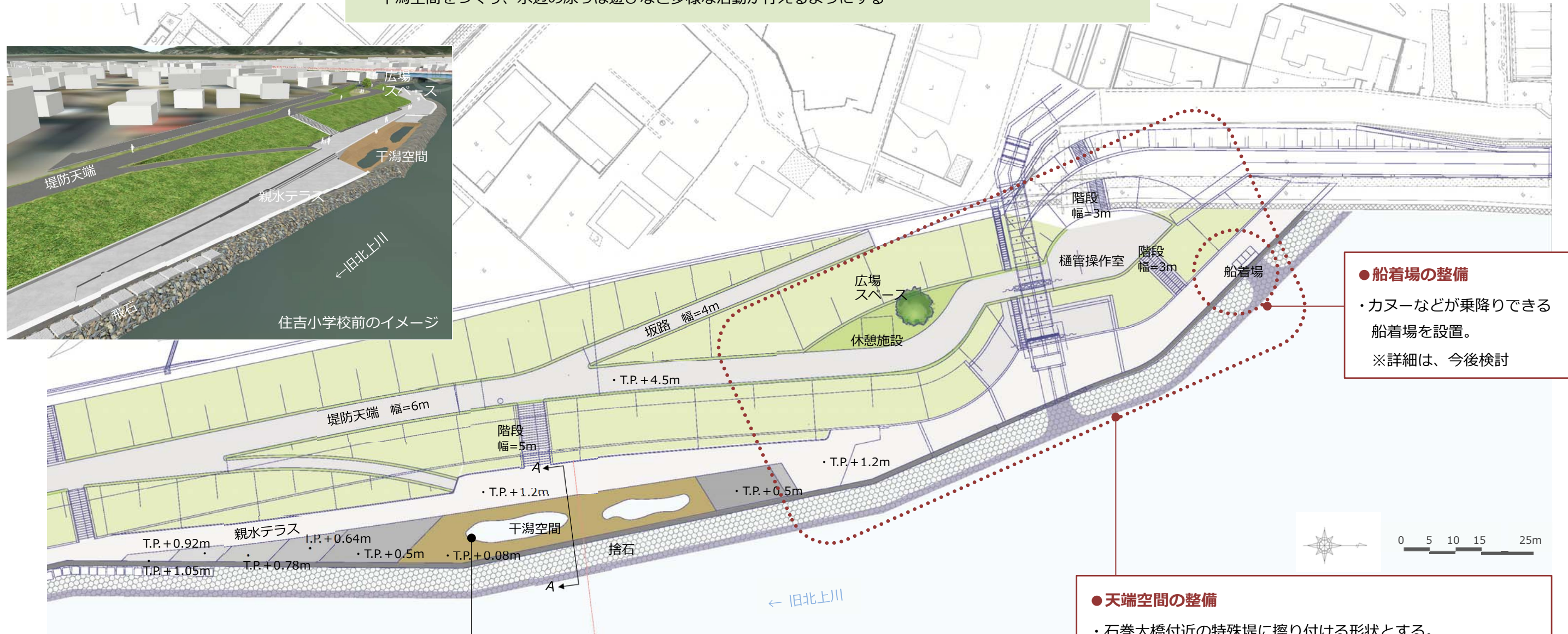
テラス
石積み擁壁
130 300
130
笠石（井内石）
天端コンクリート
覆土
水抜孔
間知石（男鹿石）
水抜孔
1:0.3
1070
950
撤去部分
テラス舗装
現況地盤
既存石積み護岸
嵩上げ護岸撤去のイメージ

③住吉小学校前の堤防・テラス空間

《デザイン方針》

河道の変遷の姿を留める場として位置付けるとともに、子供たちが自然環境に触れ合え、学び・遊べる場
 ・干潟空間をつくり、水辺の原っぱ遊びなど多様な活動が行えるようにする

□ : 第6回検討会以降の検討内容



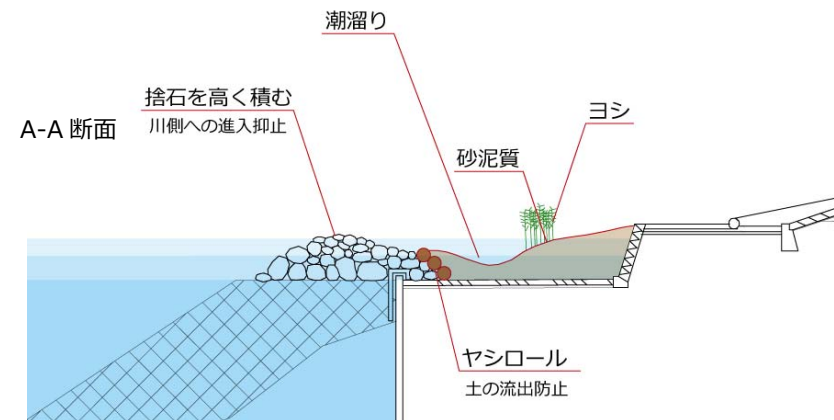
● **船着場の整備**
 ・カヌーなどが乗降りできる船着場を設置。
 ※詳細は、今後検討

● **天端空間の整備**
 ・石巻大橋付近の特殊堤に擦り付ける形状とする。
 ・天端には、管理用のスペース（樋管の操作室等）を設ける。

天端空間のイメージ

参考：干潟空間の整備イメージ

・施工性を考慮して干潟の空間高さ関係について見直しを行った。
 (干潟空間の底盤の高さを T.P.-0.8m→T.P.+0.08m (平均潮位高) に変更)



(3) 井内・藤巻地区

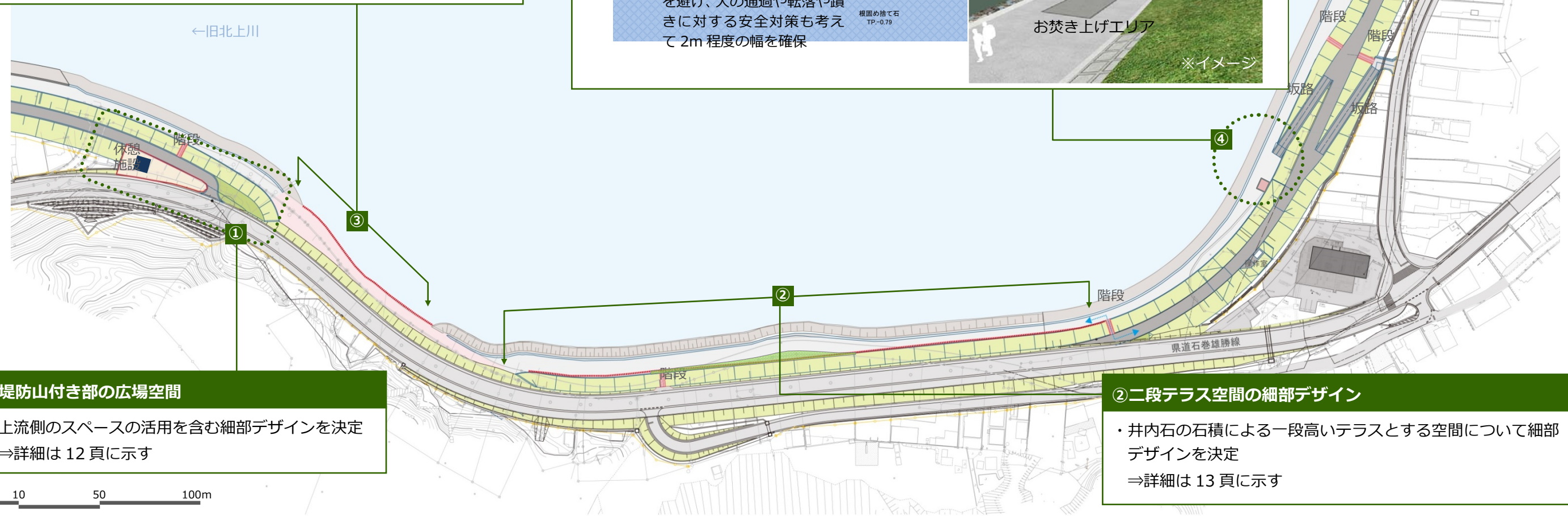
井内・藤巻地区については、以下のデザイン案等について、検討を行った。

- ①山付部広場空間の細部デザイン
- ②二段テラス空間の細部デザイン
- ③現況護岸を残置する区間の既存のブロック、ガードレールの処理方法
- ④どんと祭に利用できるテラス空間の設置

: 詳細の報告内容

③ 現況護岸を残置する区間の既存のブロック、ガードレールの処理方法

- ・ガードレールは、撤去する
- ・石積みの上のコンクリートブロックは、当該地区の整備の歴史（履歴）を残すために残置する



① 堤防山付き部の広場空間
 ・上流側のスペースの活用を含む細部デザインを決定
 ⇒詳細は 12 頁に示す

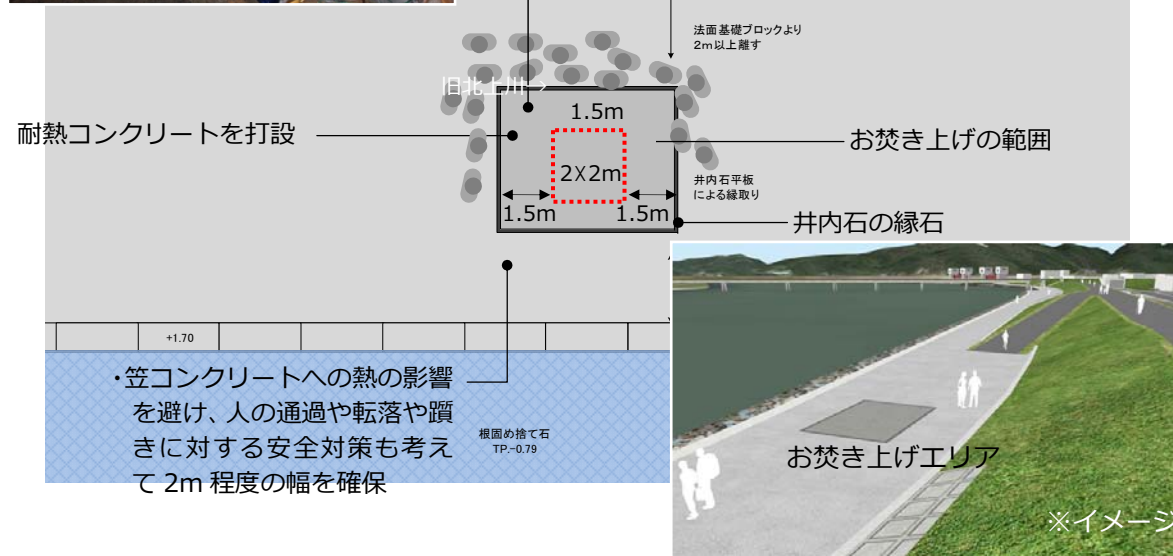
② 二段テラス空間の細部デザイン
 ・井内石の石積みによる一段高いテラスとする空間について細部デザインを決定
 ⇒詳細は 13 頁に示す

④ どんと祭に利用できるテラス空間の設置

- ・市民部会意見を踏まえ、どんと祭のお焚き上げエリア（4m×5m程度）を設置
 - ・井内石の平石等で縁取りし、日常のなかでも、お焚き上げをする場所であることを印象付ける
 - ・安全性を考慮し、耐熱コンクリートで施工する
- ※直火とならないよう、地域の方々には仮設台の設置等に協力いただく



- ・現在と同様に、川側を空けて三方を囲むような形になることを想定
- ・お焚き上げ空間として 2x2m、消防団の作業空間として三方に 1.5m、堤防や矢板護岸から 2m 以上を確保することを目安として、整備範囲は 4x5m とする

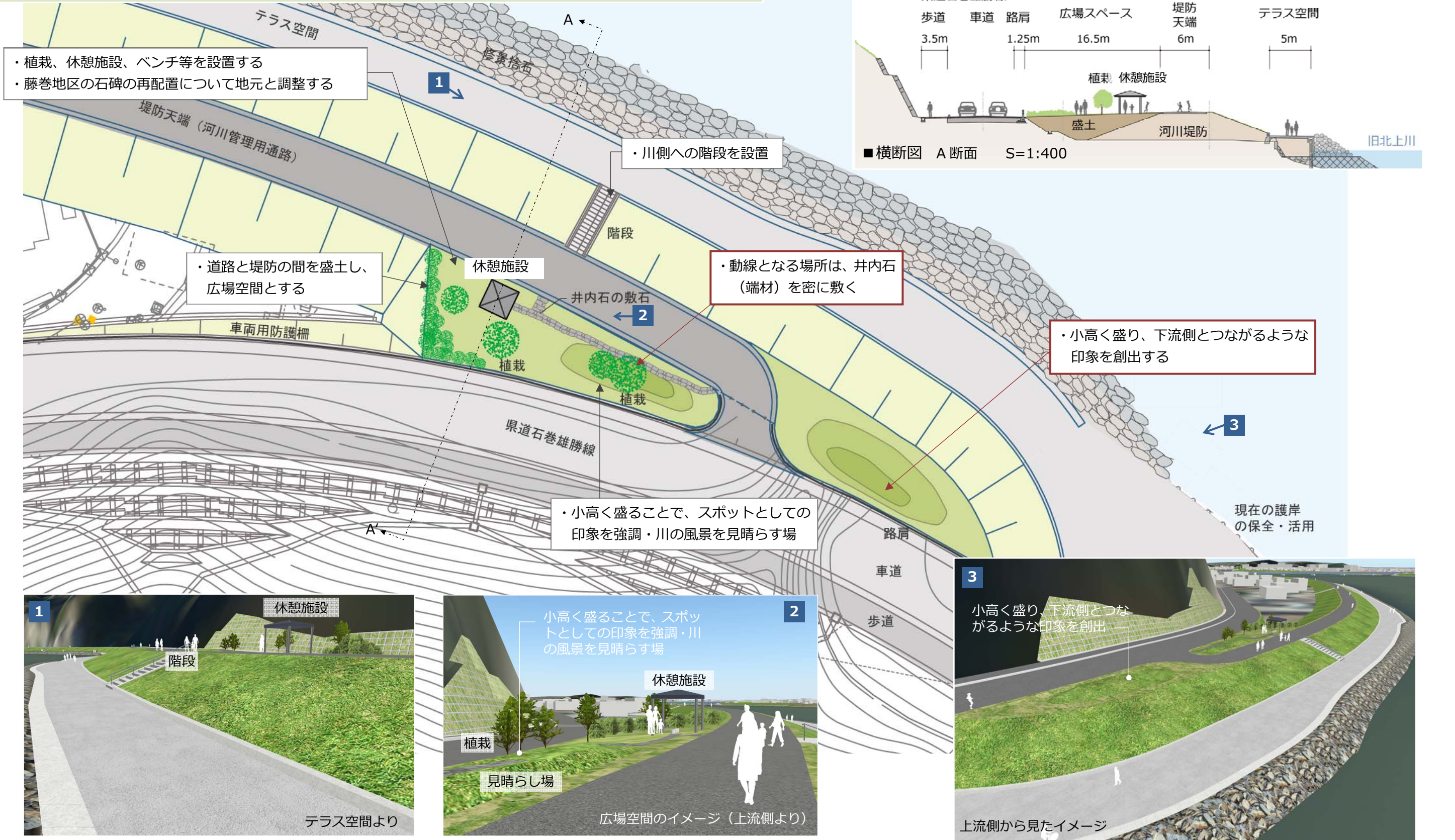


0 10 50 100m

① 堤防山付き部の広場空間デザイン

《デザイン方針》 井内・藤巻地区への入口となるスポット

- ・道路と堤防の間を盛土し、広場空間として活用を図る
- ・平場部に、植栽、休憩施設等を設置する
- ・川表側には階段を設置するとともに、平場部の動線となる箇所には井内石の敷石を、維持管理を考慮して密に敷く

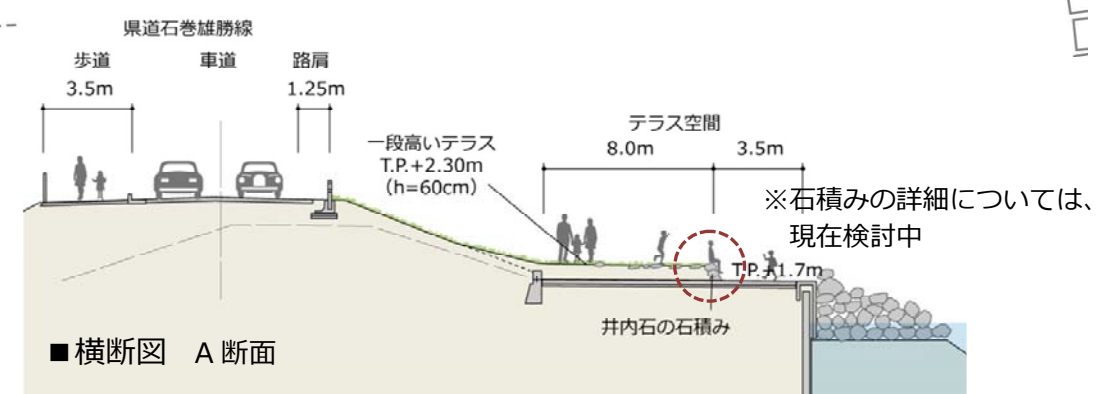
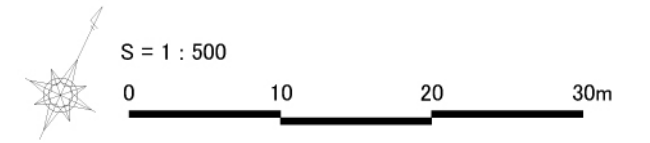


②二段テラス区間の細部デザイン

《デザイン方針》井内石が作りだしてきた井内・藤巻地区の記憶を残す空間

- ・現在の護岸の風景を継承する井内石の石積み的一段高いテラスを設置
※官民が連携した石積み作業を実践する場とする
- ・一段高いテラスは、川を眺めたり、散歩の際の休憩など、のんびり過ごすことができる空間
- ・さらに井内石のイメージを高めるとともに、テラス上の快適な利用ができるよう井内石の敷石を維持管理を考慮して密に敷く
- ・テラスの形は、現況の地形（護岸のライン）を継承したデザインとする

□ : 第6回検討会からの変更箇所



(4) 南浜地区

石巻南浜復興祈念公園と河川堤防との動線が連続性を持つよう、舗装デザインの考え方について検討を行った。

【デザインのコンセプト】

○河川に祈念公園と同基調の舗装を使用し、空間の連続性を持たせる

【舗装デザインの考え方】

① たまり空間

⇒祈念公園のエントランス等で使用されている、「ブロック舗装（アイボリー）」

② (通路部)

⇒公園内の聖人堀横の園路で使用されている「脱色アスファルト舗装（グレー）」に合わせる

※堤防天端部のアスファルト舗装は、階段部で切替える（南側の区間は、コンクリート三面被覆区間のため、「コンクリート舗装」となる）

石巻南浜復興祈念公園
計画平面図